

## 編集後記

本年は、戦後80年、ベトナム戦争終結50年という節目の年であった。

その節目の年を振り返ると、ロシア・ウクライナ戦争は終結せず、イスラエルによるガザ攻撃は一応休戦状態であり、米国トランプ政権の誕生で世界やアジアが振り回されるまさに「複合危機」の年だったと言える。の中でも、中国、インド、インドネシア、ブラジル、南アフリカなどグローバルサウスを構成する国々は存在感を増し、G20のメンバーとなり、米国やG7のリーダーシップに挑戦している。今後これらのグローバルサウスの大団は益々力をつけ、G7の国々に影響を与えて続けて、G0(ゼロ)の時代に近づいていくのではないだろうか。

一方日本は、経済成長、グローバル化の時代を経て、低成長・高齢化・人口減少・外国人増加の時代になっている。その日本の本年1年も、参議院選挙、自民党総裁選を得て、首相交代という政治的な変動があった。これまでの経済・ODA外交も内外からのプレッシャーで限界に近づいているが、今後日本はグローバルサウスの国々とどのように向き合って関係を構築して「複合危機」を乗り越えていくのか。まずお隣の中国、東南アジア諸国のようなアジアのグローバルサウスの国々とどのように「平和共存」による外交と草の根の交流を目指していくのかが問われている。

本号の特集は、「グローバルサウスの行方～複合危機と展望（アジア編）」である。最初の松下の「はじめに」と筆者の「巻頭文」と共に、論文、コラムが掲載されているので是非読んで欲しい。

特集の他、山田投稿論文は、パンダラデシュのNGOの開発援助を通じた飲料水供給をめぐる権力構造について、現地調査に基づく重要な問題提起である。キーワードは、NGOによる開発援助、参加型開発、女性（ジェンダー問題）、飲料水供給、村の権力構造となるが、安全な水の安定的な供給の確保、村の権力構造と貧困格差解消、女性など社会的弱者の参加方法、参加型開発への批判を巡る議論をさらに深めてもらいたい。

所報告は、南米コロンビア出身の人権活動家エリサベット・モレーノ・バルコ氏（通称「チアバ」）のシンポジウム（2025年4月12日明治大学開催）の報告である。バルコ氏は彼女の「女性の視点からの平和構築」の必要性を強調し、所報告は彼女が「底辺からの制度構築」を目指す『闘いの人生』であると総括している。筆者も本シンポジウムに参加したが、コロンビアの女性リーダーの彼女のスピーチは非常に説得力があり、満席の会場は非常に活気のある議論が展開されていた。バルコ氏が今後も地域のリーダーとして女性や若者の育成を目指して挑戦していくことを願いたい。

最後に、今回の本誌の編集作業は、大津健登理事（編集担当）により行ったことを付記する。

（2025年10月25日 編集長 重田康博）

## アジア・アフリカ研究

2025年 第65卷 第4号（通巻458号）

2025年10月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集人 重田康博

発行人 岡野内正

発行所 特定非営利活動法人  
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (5972) 4740

E-mail:aaken@bz01.plala.or.jp

URL:<http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷（株）  
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人（NPO法人）アジア・アフリカ研究所としての見解を表わすものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.